

# 高校生記者、中小の技発信

浜松市で地元の企業や事業者を高校生が取材して紹介する取り組みが広がっている。ブログで発信するほか、校内で発表会などを開いている。生徒が取材して発表することで、学校側は就職を前に職場の雰囲気を理解しやすくなることを狙い、企業は地元への就職につながることを期待する。中小企業を中心に人手不足が深刻になっており、浜松信用金庫などは訪問先紹介など積極支援する。

「これはどういう仕組みなんですか?」「どんな場面で使われるんですか?」。浜松市にある、電子機器などを製造するパルステック工業の本社工場。「3次元スキャナ」が人形の形状を

あっという間にパソコンに取り込んでいく様子に、高校生はくぎ付けになった。浜松工業高校の生徒6人が8月下旬、同社を訪れた。特徴や魅力をまとめ、12月に全校生徒の前で発表するためだ。実際にものづくりの現場を見て、社員から直接話を聞いた生徒からは「知りたい情報を直接質問できた。浜松のすごい企業をもっと知りたい」(情報技術科1年の松永のどかさん)とさらなる取材へ意欲的な声が相次いだ。両者を結びつけたのは浜松信用金庫だ。人材確保に

## 浜松信金などが橋渡し



高校生による取材を人材確保や企業認知の向上につなげる(浜松市のパルステック工業)

悩む地元の中小企業が多いの工藤孝史取締役は「地元ことを受け、高校生が直接のものをぐりに興味を持つ企業を取材して紹介する取組みを始めた。取材を受け、浜松工業高校の松浦健一教員が「浜松には知られてい

## 地元就職、関心醸成

ない独自技術を持った優良企業も多い。学生が広く進路を考えるきっかけになる」と話す。

浜信は今後、主催する企業展示会で取材した学生に企業の紹介をもらうなど「さらに企業と学生の距離を縮める取り組みもやっていきたい」(鳥津一晴地域活性化課長) 考えた。

LPガス販売のエネシン(浜松市)は浜松湖北高校と伊東商業高校に取材企業を紹介し、同社ブログの専用コーナーで紹介してもらう取り組みを4月から実施している。実際に取材し、県外の大学に進学予定の学生に出た生徒の中でUターン就職する人が増え、人口減の緩和につながることも目指す。(伊神賢人)

きて就職するのも選択肢として考えたい」と話す。エネシンも「若い世代が地元企業に関心を持ったり、就職したりするきっかけをつくるのが、長い目で事業の維持拡大につながる」(営業企画部の岡本章氏)としている。

浜信もエネシンもこうした取り組みが直接本業に貢献する訳ではないが、地域に根差した事業だけに地元企業に優秀な人材が集まることによる、地域経済の活性化を期待する。さらに、地元企業の魅力を知ってもらうことで、進学で県外に出た生徒の中でUターン就職する人が増え、人口減の緩和につながることも目指す。